

令和3年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立八王子北高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 主幹教諭（教務主任兼務）＝事務局長、教務部員2名 計3名
- (3) 校内委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、教務主任、生活指導主任、進路指導主任、学年主任 計7名
- (4) 協議委員の構成
学識経験者、PTA会長、同窓会代表、私立教育機関代表者、地域経済界代表者、
近隣中学校長、近隣小学校長、近隣自治会長 計8名

2 令和3年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
 - ①第1回：令和3年 7月（書面開催） 内部委員7名、協議委員8名
協議委員委嘱、委員紹介、学校経営計画、本校の現状と課題の説明、意見交換、事務連絡
 - ②第2回：令和3年12月（書面開催） 内部委員7名、協議委員8名
本校の現状と課題について、本年度の学校評価アンケートについて、意見交換、事務連絡
 - ③第3回：令和4年 3月（書面開催） 内部委員7名、協議委員8名
本校の現状と課題について、本年度の学校評価アンケート結果について、意見交換、事務連絡
- (2) 評価委員会の開催日時
 - ①第1回：令和3年 7月（書面開催） 評価委員3名
本年度の新学校評価アンケートの進め方
 - ②第2回：令和3年12月（書面開催） 評価委員3名
本年度の学校評価アンケートの検討と実施について
 - ③第3回：令和4年 3月（書面開催） 評価委員3名

※新型コロナウイルス感染症の影響により学校運営連絡協議会・評価委員会が対面開催できなかった。

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
 - ①本校の経営計画に基づいた教育活動に対する生徒・教職員および保護者の理解度を把握する。
 - ②生徒の学校に対する評価および生徒自身で成長の度合いを理解する。
 - ③地域社会の評価から教育活動を対外的に把握するとともに、その改善に取り組む。
 - ④基本的な学力向上を目標に、生徒の学習に対する意識や家庭での自主的な学習時間の実態を把握する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模
 - ①12月：生徒対象 572/591人
 - ②12月：保護者対象 130/591人
 - ③11月：教職員対象 41/41人
 - ④12月：地域住民対象 35人（協力：檜原西部町会）
- (3) 主な評価項目
 - ①生徒対象・・・ 授業、生活指導、特別活動、進路指導、学校生活
 - ②保護者対象・・・ 授業、生活指導、特別活動、進路指導、学校生活(対生徒・対教師)、その他
 - ③教職員対象・・・ 授業、生活指導、特別活動、進路指導、学校生活(対生徒・対教師)、その他
 - ④地域住民対象・・・ 地域での学校の知名度・生活指導・部活動・開かれた学校づくり・本校への評価
- (4) 評価結果の概要（校長や学校全般への意見・提言内容）
 - ①全体的に概ね肯定的な結果を得られた。16の質問項目中9項目で肯定的評価が8割以上となった。
 - ②挨拶やマナー、部活動、働き方改革、HP・PR活動、「わかる」授業については、さらなる評価向上を目指す
 - ③「生徒は、Good Try!に積極的に取り組んでいる。」については、教職員の肯定的評価が81%と前年度比18%アップで、探究活動等で生徒が挑戦する機会を増やすなど、積極的に取り組んでいることがうかがわれる。生徒の肯定的評価は前年とほぼ同程度である。保護者の評価は、回答選択肢に「わからない」を新設した影響が及んでいるものの、否定的評価22%は前年度比16%と大幅なダウンが見られた。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ①今年度はマイクロソフトの FORMS を利用した学校評価アンケートを初めて実施した。日頃の教育活動で TEAMS を利用しており、担任団等の協力もあり、生徒・教職員の回収率を向上できたが、保護者への周知が十分でなかったのが来年度への課題である。
- ②保護者・地域の評価をより正確に把握するために、回答選択肢に「わからない」を新設した。その結果、前年度と比較しにくいケースもあったが、本アンケートにより学校運営に関して、多くの方々から率直な意見を頂戴し、家庭・地域との協力体制づくりに必要なデータが得られた。
- ③地域対象アンケートから全般的に高い肯定的評価を得ることが出来たが、「わからない」と回答した割合も少なくない。新型コロナウイルスの対策で、来校する機会が限られていたこともあるが、今後も PR 活動を推進して行く必要がある。
- ④今回のアンケートでは、概して高い評価を得られているが、今後も、生徒の高校生活を充実させ、高校生力を活かした地域活動の中核とすべく、本協議会の活動を充実させていきたい。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ①生徒が「わかる」を実感でき、「考え方」を学び、主体的に学力を伸ばしていく授業を目指して、授業内容・方法をさらに工夫し実践していく。
- ②授業以外の学習時間が30分未満の生徒が60%程度にのぼる一方で、通信機器の使用時間3時間以上が60%を上回る。自主的な学習習慣確立が今後も課題であり、家庭学習習慣の定着を図る取り組みを続ける必要がある。宿題や課題を定期的に出すなど工夫をする必要がある。
- ③募集対策を見据えながら、PR 活動をさらに充実する必要がある。
- ④大学・専門進学者が増えており、受験方法も推薦だけでなく、総合型選抜や一般受験に挑戦する生徒も増加傾向にある。大きくなりつつある進路指導への期待に応えるべく、さまざまな進路指導の取組などにより、進学実績も向上しているが、進路希望を実現できる授業の充実が求められている。また就職希望者の就職率100%を維持する必要がある。
- ⑤生徒の自主・自立を育てていく生活指導を継続・発展し、コミュニケーション力・プレゼンテーション力など、社会人としての基本的能力の向上が必要である。
- ⑥従来、小・中学校及び地域社会との連携が学びの場を広げるとともに、地域に生きる学校としての自覚と活動が、生徒の自己肯定感高揚につながってきた。今後も、感染症の推移を見据えながら、積極的に地域活動を取り入れる仕組みを構築していく必要がある。
- ⑦感染症対策で制約があるものの、地域への情報発信や貢献活動を継続する必要がある。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

(1) 学校運営

「期待される学校像」の実現を目指し、組織的な教育活動をさらに進める。適切な予算管理と効率的な予算執行を行うとともに、安全な学校生活を図るため施設設備の維持管理をさらに推進する。

(2) 学習指導

- ①今後も、少人数指導や習熟度指導などを活用し、基礎基本を徹底して学力向上を図るとともに、希望が高まりつつある大学進学等に対応した授業を展開し、生徒の進路希望実現を図っていく。
- ②家庭における学習時間を確保するため、保護者と連携しながら、「自主的」な学習習慣の確立を目指して、学校全体として取り組んでいく。

(3) 特別活動

コロナ禍ながら、オンラインを活用したり、学年別に開催したり、新しい形で北斗祭の実施をすることができた。また、修学旅行の代替行事を実施することもできた。感染症の推移を注視しながら、生徒の主体的な活動を支援し、部活動をさらに活性化させる必要がある。

(4) 生活指導

- ①保護者と連携して、基本的な生活習慣・規範意識の指導を徹底させるとともに、地域での規律、マナーの指導をさらに推進する。
- ②コロナ前の学校行事への期待が大きいので、感染症の推移を注視しながら、次年度について検討を重ねていく。

(5) 進路指導

オンライン等を活用しながら、キャリア教育の一層の充実を図る。今後も感染症の推移を注視しながら、インターンシップ・上級学校訪問・授業体験の機会をより充実させ、将来への展望を持たせる進路指導

を継続する。また、日々の授業を大切にする姿勢を育て、進路希望実現に必要な学力を育成していく。

(6) 保健指導

- ①スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーと連携して教育相談を推進し、カウンセリング・アンケートやケース会議などに取り組んだ結果、学校評価アンケートでは高い肯定的評価を得ている。生徒・保護者の期待が大きく、今後も継続していく必要がある。
- ②感染症対策を中心に、健康管理や健康増進、黙食指導、ごみの分別や持ち帰り指導を推進した。生徒の健康意識が高まり、生活習慣の向上につながっていると思われる。今後も指導の徹底を図っていきたい。

6 職員会議および企画調整会議への協議委員の参加実績および成果

(実績) なし

(成果) なし

7 その他

次年度もこの結果を活用できる教育活動に取り組みたい。